

ミニプロジェクト

コロナによる旅行意図の変化

商学部 濱岡豊研究会3年 久井玲香



目次

- 研究について
- 事例研究
- 二次データ
- 仮説の枠組み
- 仮説
- 使用したデータセットの概要
- 単純集計
- 分析結果
- 考察
- 提言
- 謝辞
- 参考文献

研究について

分析内容

コロナを通して大きく変化した旅行のあり方について、データを用いながら見ていく。データは、旅行意図に影響し得る内的要因と外的要因に着目していく。文化が大きく異なる日本とイタリアのものを比較していくことで、国の特徴も踏まえた人々の旅行意図の持ち方について分析していく。

研究の目的

分析結果を通じて、国内・国外旅行を再熱させるために意識すべきポイントや、取るべき策について提言していく。最終的には、国ごとの比較に基づいて、各々が独自に意識すべき点について述べていく。

事例研究

- コロナによる生活の変化



個人での取組み

検温・アルコール消毒
マスク生活



組織での取組み

外出自粛
オンラインでの活動

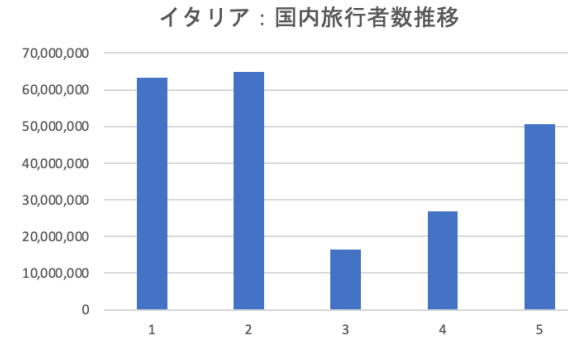
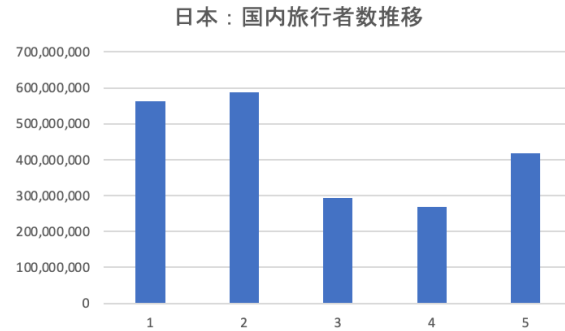
事例研究（日本）

- コロナの発生
 - 日本では、2020年1月15日に最初の感染者が確認されている。その後、3月下旬から5月下旬にかけて、コロナウイルスの大きな流行が見られた。それを受けて緊急事態宣言が出され、国民への外出自粛要請や事業者への休業要請などを行ったことによって、5月には少しずつ感染症拡大を抑えていた。
 - 元々マスク文化のある日本だが、危機感に応じてマスクを付ける人が増えてくる。徹底した手洗いやうがい、アルコール消毒の呼びかけが行われた。
- コロナ禍
 - 緊急事態宣言は、2020/4/7~2021/9/30の間に計4回発令されていた。また、蔓延防止等重点措置においては、2021/4/5~2022/3/21の間に2度実施されていた。（状況に応じて都道府県ごとに期間が変わることもあった）
 - 検温・アルコール消毒やマスク着用について、基本どの機関や建物でも義務化されていた。
- コロナ収束
 - 2023年にコロナが5類に移行したことをきっかけに、全ての制限が緩和されるようになった。
 - 検温・アルコール消毒、マスクの義務化を促す機関もほとんどなくなる。街中でマスクを付けながら歩く人が大幅に減少。

事例研究（イタリア）

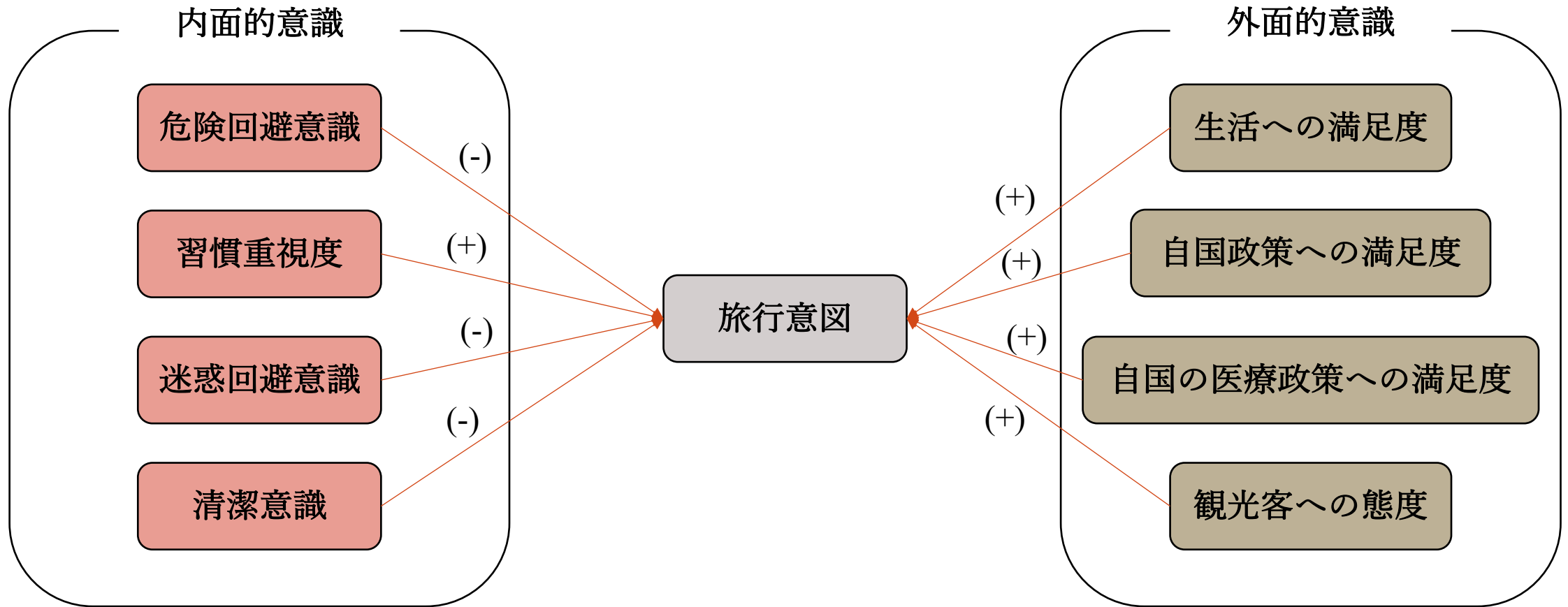
- コロナの発生
 - 2020年2月21日に、イタリア北部でイタリア人のコロナウイルス感染者が出たことから、イタリアのコロナの流行は始まる。イタリアは、欧州で一番初めにコロナウイルスの影響を受けた国である。それ以前に中国からのコロナウイルス発生のニュースを受けたものの、ウイルス感染の勢いが強く、対応が取られていなかったことで、感染が拡大した。
 - 初めは、製造されているマスクが十分ではなかった。
- コロナ禍
 - 後に、更なる感染拡大を防止するためにロックダウンが行われた。
 - 病院体制が悪く、医者が足りない状態。自宅療養を命じられる人もいた。
- コロナの収束
 - 未だコロナについては警戒している状態だが、リモートワーク化など、生活スタイルを変化させることによって、新しい生活スタイルを確立させてきている。
 - 2022年から、状況は少しずつ緩和されているものの、ワクチン接種を義務化したケースがある。

二次データ（国内旅行者数推移）



	日本	イタリア
①2018年	561,780,000	63,195,203
②2019年	587,100,000	64,825,156
③2020年	293,410,000	16,482,810
④2021年	268,210,000	26,888,993
⑤2022年	418,050,000	50,525,695

仮説の枠組



仮説

仮説番号	仮説内容	質問番号
Hi1(-)	危険回避意識と旅行意図には負の相関がある	q5a_1
Hi2(+)	習慣重視度と旅行意図には正の相関がある	q5a_6
Hi3(-)	迷惑回避意識と旅行意図には負の相関がある	q5a_9
Hi4(-)	清潔意識と旅行意図には負の相関がある	q19_4, q19_5

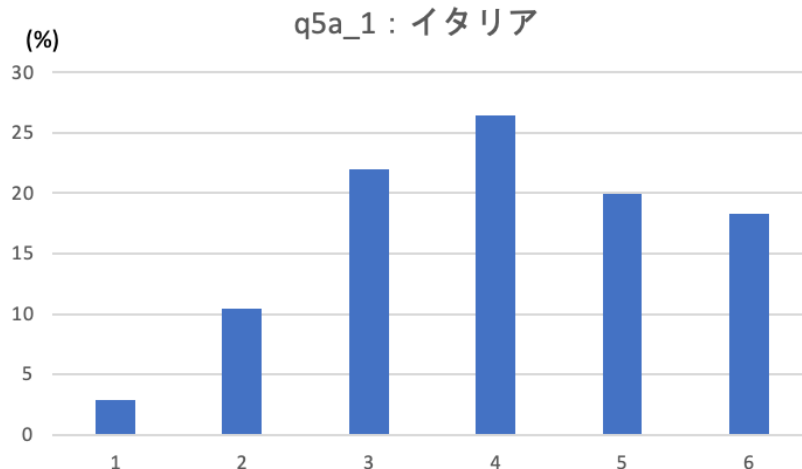
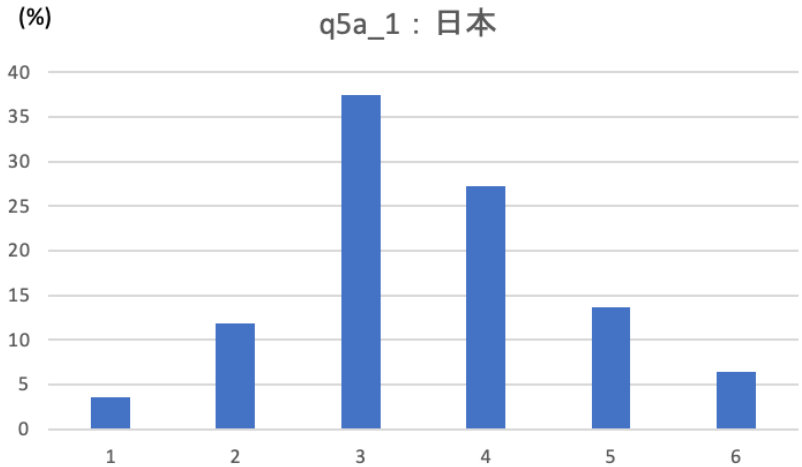
仮説

仮説番号	仮説内容	質問番号
Ho1(+)	生活への満足度と旅行意図には正の相関がある	q6
Ho2(+)	自国の政策への満足度と旅行意図には正の相関がある	q20
Ho3(+)	自国の医療制度への満足度と旅行意図には正の相関がある	q21
Ho4(+)	観光客への態度と旅行意図には正の相関がある	q18_1, q18_4

使用したデータセットの概要

- **2020年7月**に行われたアンケート調査。コロナを経て得たリスク認識や、行動・態度において意識する項目について、経験（主に旅行）に対する支出意向を問うことで調査している。
- 調査地域は、日本、イタリア、デンマーク、中国の**4**カ国。そのうちの日本とイタリアのデータを使用していく。

単純集計（危険回避意識）

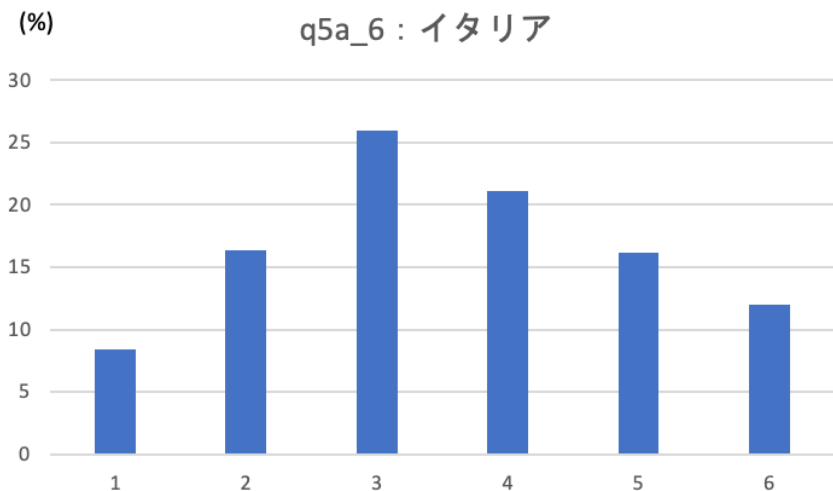
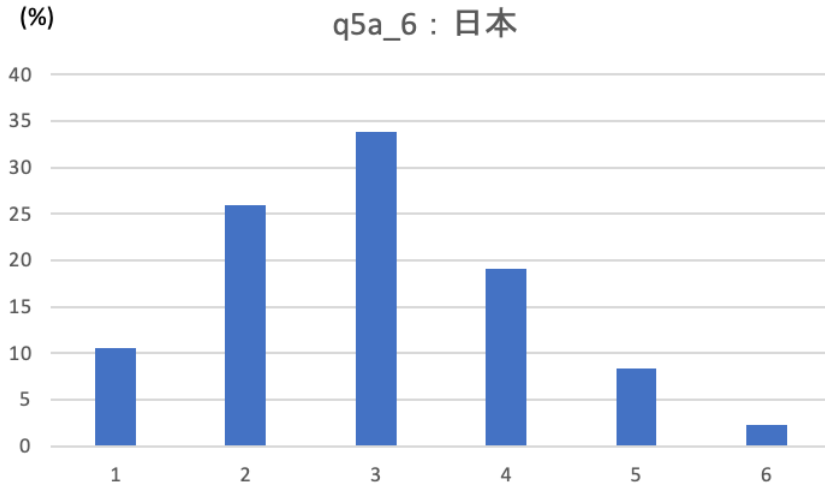


q5a_1 人によって大切なことは異なります。次のような人がいるとすれば、それぞれのあり方について、あなたはどの程度当てはまりますか？

自分の安全に危険を及ぼす可能性のあるすべてのことを避けるのが大切な人

1. 全く当てはまらない
2. 当てはまらない
3. 少し当てはまる
4. 少し当てはまる
5. 当てはまる
6. 非常によく当てはまる

単純集計（習慣重視度）

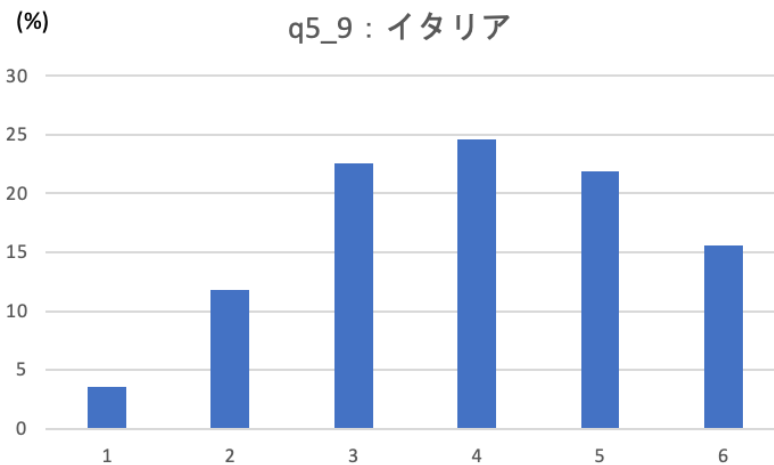
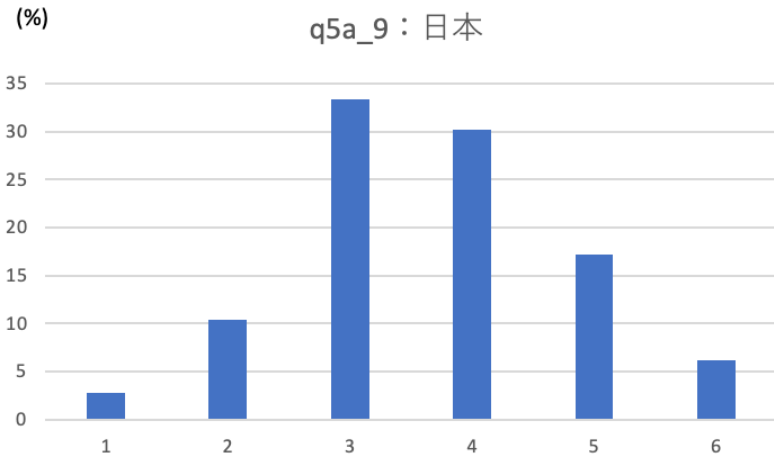


q5a_6 人によって大切なことは異なります。次のような人がいるとすれば、それぞれのあり方について、あなたはどの程度当てはまりますか？

伝統、宗教や家族によって受け継がれてきた習慣に従うことが大切な人

1. 全く当てはまらない
2. 当てはまらない
3. 少し当てはまる
4. 少し当てはまる
5. 当てはまる
6. 非常によく当てはまる

単純集計（迷惑回避意識）

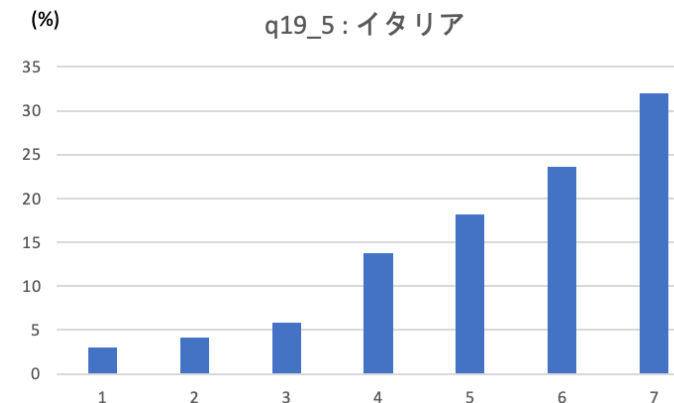
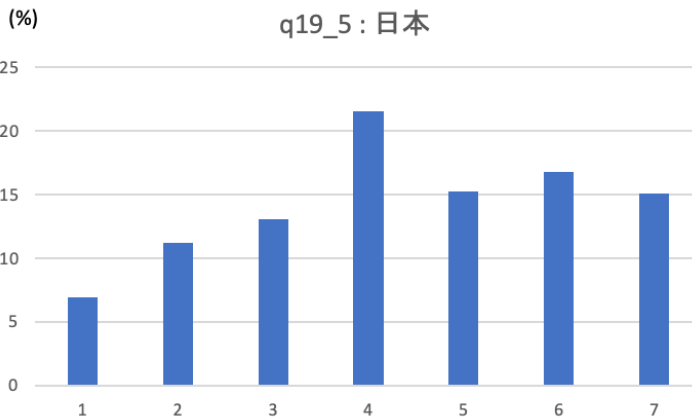
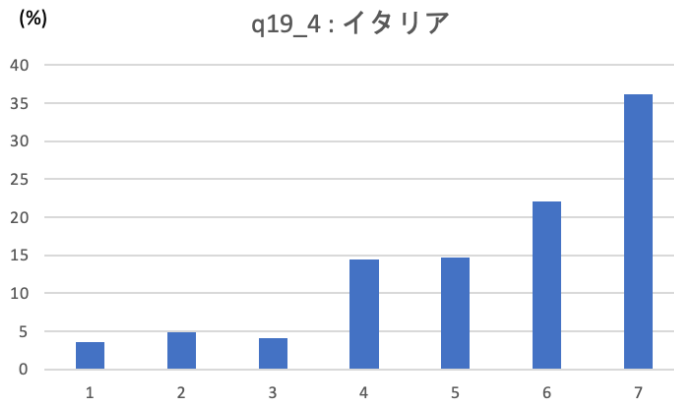
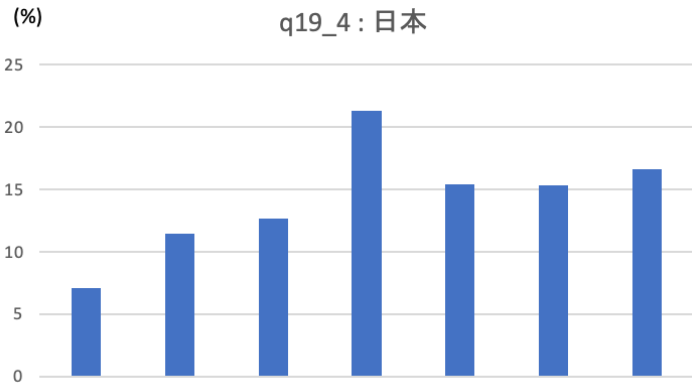


q5a_9 人によって大切なことは異なります。次のような人がいるとすれば、それぞれのあり方について、あなたはどの程度当てはまりますか？

常に正しくふるまい、他の人に迷惑をかけるような行動を一切避けることが大切な人

1. 全く当てはまらない
2. 当てはまらない
3. 少し当てはまる
4. 少し当てはまる
5. 当てはまる
6. 非常によく当てはまる

単純集計 (清潔意識)



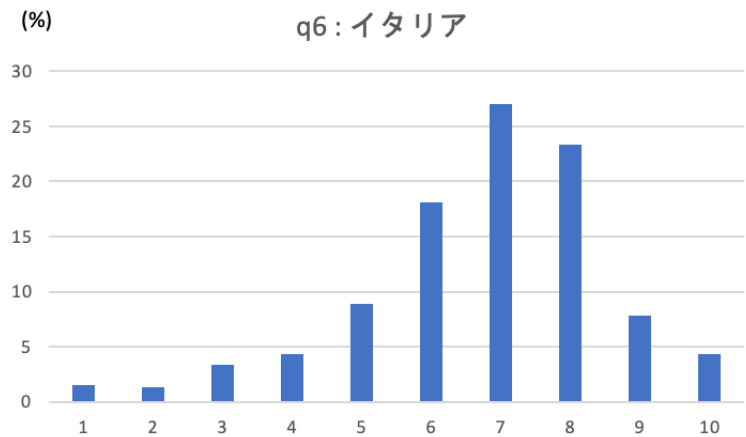
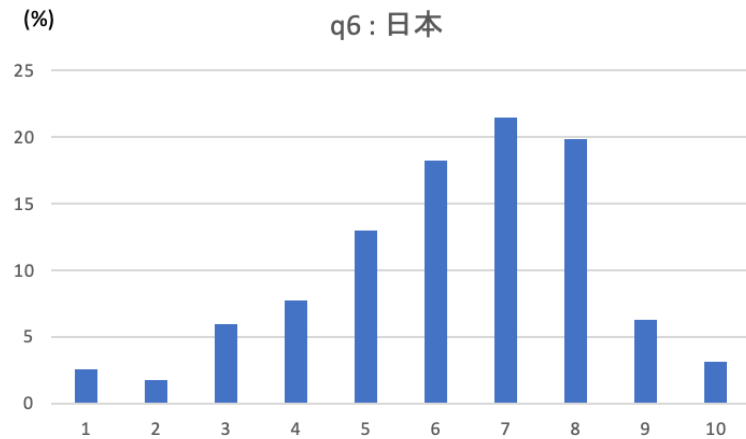
q19 次の記述についてどのくらいあてはまりますか？

④ 消毒液を常に持ち歩き、自ら衛生と安全を確保するために、お店の商品などを触った後で自分の手を消毒している

⑤ 消毒液を常に持ち歩き、他の人が衛生的で安全だと感じるように、お店の商品を触る前に自分の手を消毒している

1. まったくあてはまらない
2. あてはまらない
3. あまりあてはまらない
4. どちらとも言えない
5. ややあてはまる
6. あてはまる
7. とてもあてはまる

単純集計（生活への満足度）



q6 近頃のあなたの生活についてどのくらい満足していますか？

1-全く満足していない

2

3

4

5

6

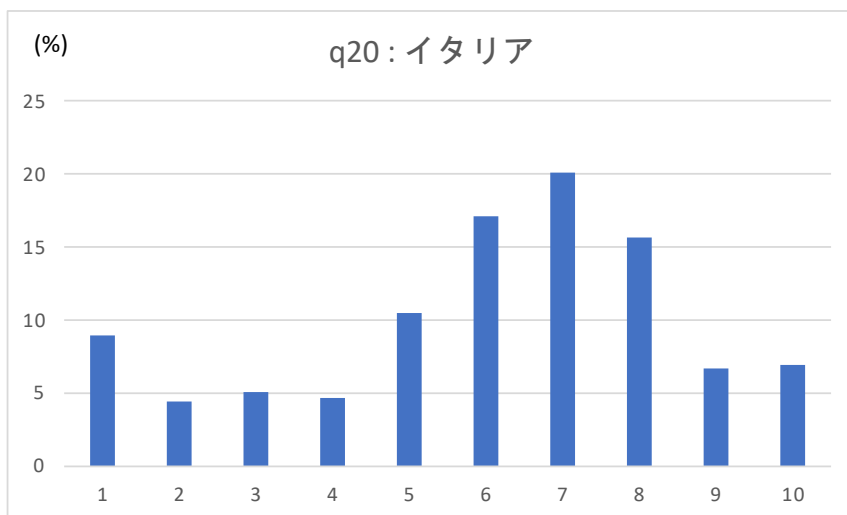
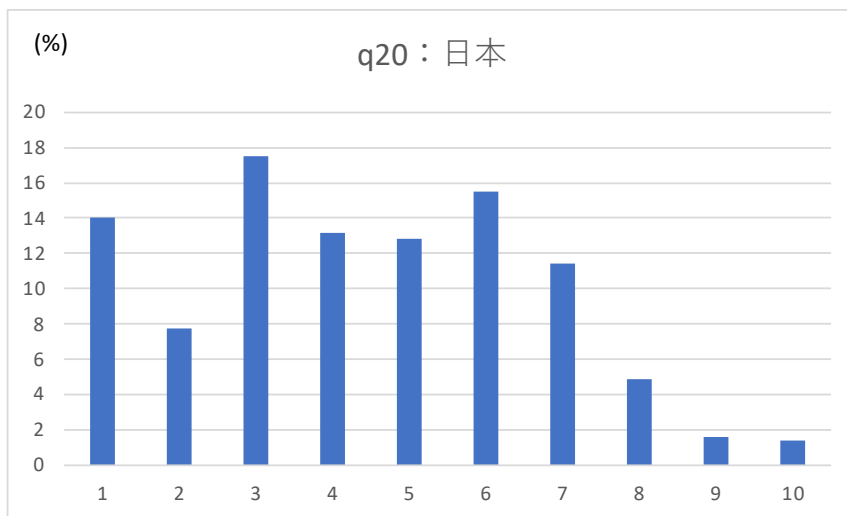
7

8

9

10-とても満足している

単純集計（自国の政策への満足度）



q20 政府が実施する政策について、全体的に満足していますか

1 - 全く満足していない

2

3

4

5

6

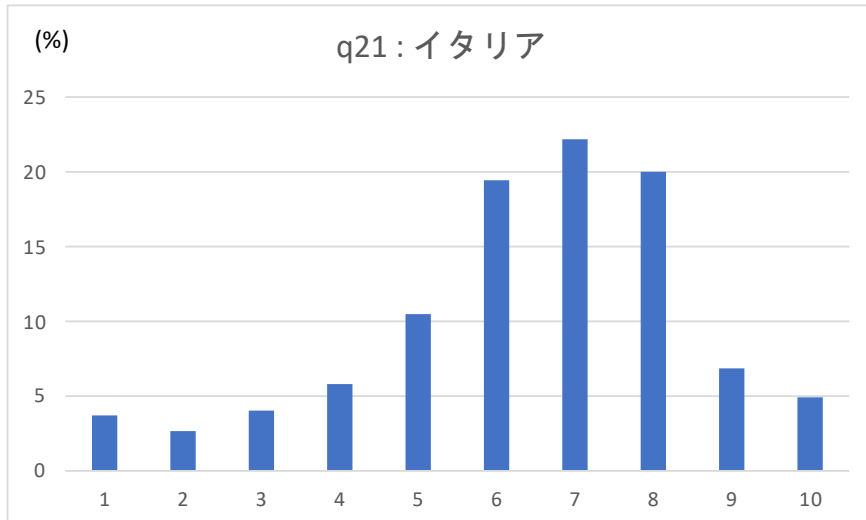
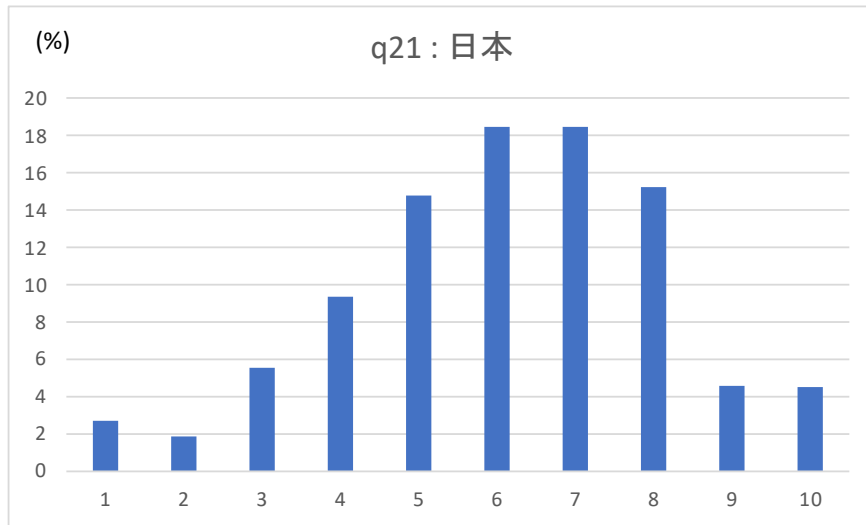
7

8

9

10 - とても満足している

単純集計（自国の医療制度への満足度）



q21 近頃の国の医療制度について、全体的にどう思われますか？

1 - とても悪い

2

3

4

5

6

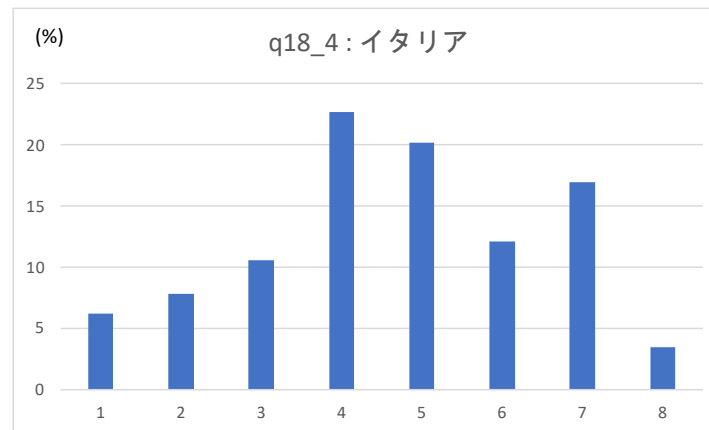
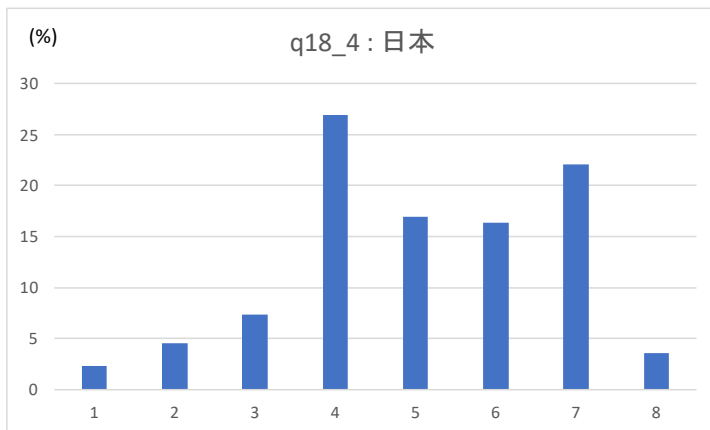
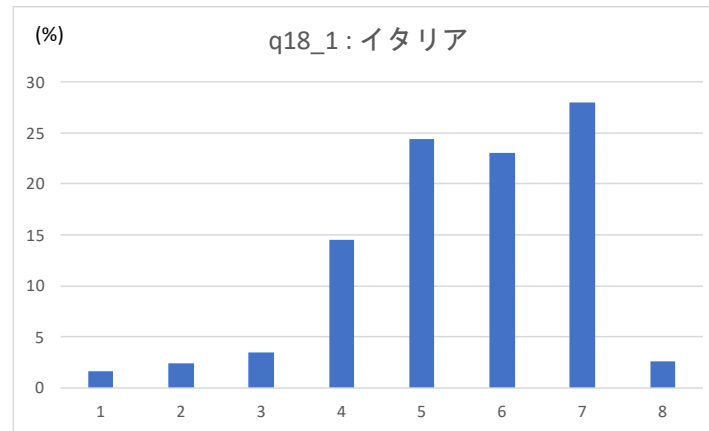
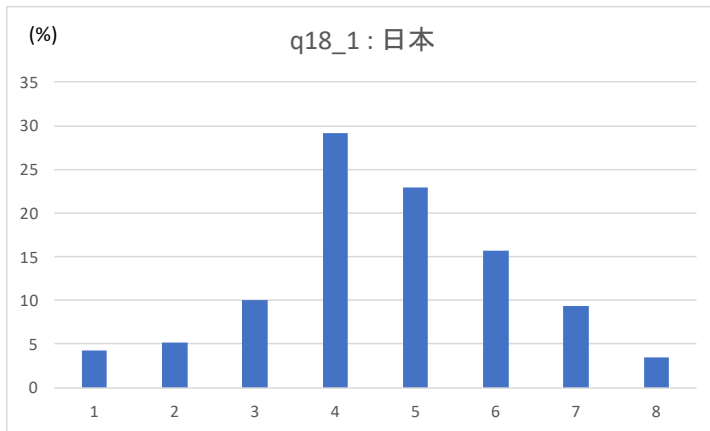
7

8

9

10 - とても良い

単純集計（観光客への態度）



q18 この質問は、観光地の住民としての立場で答えてください。次の記述についてどのくらいあてはまりますか？

- ①外国人観光客を地元の地域に受け入れることは、地域経済を活性化に重要だと思う
- ④私の住んでいる地域での病気感染のリスクを避けるために、この先1年半は、行政が、海外から訪れる観光客を制限するべきだ

- 1 まったくあてはまらない
- 2 あてはまらない
- 3 あまりあてはまらない
- 4 どちらとも言えない
- 5 ややあてはまる
- 6 あてはまる
- 7 とてもあてはまる
- 8 わからない

分析結果 (日本)

	質問番号	Estimate	Std. Err	t value	Pr(> t)
Intercept		2.010e+00	2.681e-01	7.497	1.42e-13 ***
危険回避意識	q5a_1	-1.151e-01	4.544e-02	-2.532	0.0115 *
習慣重視度	q5a_6	5.277e-02	4.163e-02	1.268	0.2052
迷惑回避意識	q5a_9	-1.363e-02	4.774e-02	-0.286	0.7752
清潔意識	q19_4	-1.750e-02	3.879e-02	-0.451	0.6520
	q19_5	7.724e-02	3.946e-02	1.957	0.0506
生活への満足度	q6	1.260e-02	2.489e-02	0.506	0.6129
自国の政策への満足度	q20	1.019e-01	2.307e-02	4.416	1.11e-05 ***
自国の医療制度への満足度	q21	3.829e-03	2.550e-02	0.150	0.8807
観光客への態度	q18_1	1.638e-01	3.083e-02	5.312	1.33e-07 ***
	q18_4	9.683e-05	5.299e-04	0.183	0.8551

注) 有意水準 : 0.1%=***, 1%=**, 5%=*, 10%=.

分析結果（イタリア）

	質問番号	Estimate	Std. Err	t value	Pr(> t)
Intercept		2.930e+00	3.197e-01	9.165	< 2e-16 ***
危険回避意識	q5a_1	-2.332e-02	3.832e-02	-0.609	0.5429
習慣重視度	q5a_6	2.391e-02	3.411e-02	0.701	0.4836
迷惑回避意識	q5a_9	1.628e-02	3.735e-02	0.436	0.6630
清潔意識	q19_4	-8.890e-02	3.988e-02	-2.229	0.0260 *
	q19_5	9.749e-02	4.096e-02	2.380	0.0175 *
生活への満足度	q6	5.808e-02	2.620e-02	2.217	0.0269 *
自国の政策への満足度	q20	-2.105e-02	2.077e-02	-1.013	0.3111
自国の医療制度への満足度	q21	4.115e-02	2.513e-02	1.637	0.1019
観光客への態度	q18_1	2.166e-01	3.315e-02	6.533	1.06e-10 ***
	q18_4	-6.788e-05	3.868e-04	-0.175	0.8607

注) 有意水準：0.1%=***, 1%=**, 5%=*, 10%=.

分析結果（2カ国比較）

仮説番号	仮説内容	日本	イタリア
Hi1(-)	危険回避意識と旅行意図には負の相関がある	採択 (0.1%)	棄却
Hi2(+)	習慣重視度と旅行意図には正の相関がある	採択 (5%)	棄却
Hi3(-)	迷惑回避意識と旅行意図には負の相関がある	棄却	棄却
Hi4(-)	清潔意識と旅行意図には負の相関がある	棄却	採択 (5%)
Ho1(+)	生活への満足度と旅行意図には正の相関がある	棄却	採択 (5%)
Ho2(+)	自国の政策への満足度と旅行意図には正の相関がある	採択 (0.1%)	棄却
Ho3(+)	自国の医療制度への満足度と旅行意図には正の相関がある	棄却	棄却
Ho4(+)	観光客への態度と旅行意図には正の相関がある	採択 (0.1%) /棄却	採択 (0.1%) /棄却

考察（危険回避意識）

仮説番号	仮説内容	日本	イタリア
Hi1(-)	危険回避意識と旅行意図には負の相関がある	採択 (0.1%)	棄却

- 日本のみが採択された。
- この仮説からは、旅行のリスクに対する認識を読み取ることができる。仮説が採択された日本は、旅行にはコロナが蔓延する危険性や自分自身が感染する危険性があるという様に認識している。対して、仮説が棄却されたイタリアでは、旅行がコロナ感染のリスクを持ち合わせているという認識が低いということが分かる。
- また、コロナ感染リスクの重さの捉え方の違いとも見て取れる。日本は、人と接触することがコロナ蔓延の原因であるという認識が強く、対してイタリアはその意識が人によって異なる。

q5a_1	「自分の安全に危険を及ぼす可能性のあるすべてのことを避けるのが大切な人」に、どの程度当てはまるか
-------	--

考察（習慣重視度）

仮説番号	仮説内容	日本	イタリア
Hi2(+)	習慣重視度と旅行意図には正の相関がある	採択 (5%)	棄却

- 旅行を習慣とする家族がいたり、受け継がれてきた考え方が旅行意図に影響したりすることを考え、「週間重視度」を仮説に加えたが、日本においてのみ採択された。
- これは、習慣や伝統の内容が人によって異なり、様々な形で旅行意図に影響しうるため、使用した質問の幅が広すぎであると言える。一つだけでなく、いくつかの質問から「習慣重視度」を測るべきであった。

q5a_6	「伝統、宗教や家族によって受け継がれてきた習慣に従うことが大切な人」に当てはまるかどうか
-------	--

考察（迷惑回避意識）

仮説番号	仮説内容	日本	イタリア
Hi3(-)	迷惑回避意識と旅行意図には負の相関がある	棄却	棄却

- 危険回避意識のように、コロナ感染・蔓延リスクのある旅行を避ける意識の高い人ほど旅行意図は低いのではないかという考えより、それを周囲の人に迷惑をかけないという意識を重視した「迷惑回避意識」を仮説に加えたが、どちらの国でも棄却された。

q5a_9	「常に正しくふるまい、他の人に迷惑をかけるような行動を一切避けることが大切な人」に当てはまるかどうか
-------	--

考察（清潔意識）

仮説番号	仮説内容	日本	イタリア
Hi4(-)	清潔意識と旅行意図には負の相関がある	棄却	採択 (5%)

- イタリアにおいてのみ、仮説は採択された。
- まず、日本で仮説が棄却されたのには、アルコール消毒の在り方の違いが挙げられる。日本では、人によってアルコール消毒への信頼度が異なり、アルコール消毒さえすれば感染率が大きく下がると考える者もいれば、アルコール消毒だけでは感染症対策としては足りないと考えて旅行のような遠出/外出を控える人もいると見られる。単純集計で、イタリアに比べて回答傾向がバラけていたことから見て取れる。
- 対して、イタリアでは、単純集計でも見られたように清潔意識が高い人とそうでない人の差が激しいと見られる。清潔意識が高い人ほど、ウイルスの感染や蔓延することを避け、且つ対策としてアルコール消毒をこまめにする人が多いと見て取れる。

q19_4	「消毒液を常に持ち歩き、自ら衛生と安全を確保するために、お店の商品などを触った後で自分の手を消毒している」にどの程度当てはまるか
q19_5	「消毒液を常に持ち歩き、他の人が衛生的で安全だと感じるように、お店の商品を触る前に自分の手を消毒している」にどの程度当てはまるか

考察（生活への満足度）

仮説番号	仮説内容	日本	イタリア
Ho1(+)	生活への満足度と旅行意図には正の相関がある	棄却	採択 (5%)

- イタリアのみ採択された。
- まず、旅行をする上で経済的に満足している必要があることがある。次に、旅行の目的として、普段触れることのできない文化に触れてみたり、新しい発見を求めたりするというもの、見方を変えれば現実逃避をすることが想定される。仮説が採択されたイタリアは、生活への満足度が高いほど旅行意図が高い、逆に生活への満足度が低いほど旅行意図が低いという結果が出ている。生活への満足度が低いほど現実逃避を望むことが想像されるが、旅行意図が低いことから、イタリア国民は生活への満足度を金銭的余裕で測っていると見て取ることができる。対して、日本では仮説が棄却されていることから、金銭面以外の要素でも満足度を測っていることが考察される。

q6	近頃のあなたの生活についてどのくらい満足していますか？
----	-----------------------------

考察（自国の政策への満足度）

仮説番号	仮説内容	日本	イタリア
Ho2(+)	自国の政策への満足度と旅行意図には正の相関がある	採択 (0.1%)	棄却

- 日本のみが採択された。
- 日本の単純集計より、自国の政策への満足度が低い人が多かったことより、政策への満足度が低いことによって旅行意図が低くなる理由について考察していきたい。日本は、緊急事態宣言による外出自粛による経済的ダメージを特に受けた。なぜなら、日本人は他国に比べてよく働いていたからである。そのため、外出自粛政策によって、特に飲食店などは稼ぎが大幅に減ったことから政策への満足度が下がるとともに、旅行をするための経済的余裕もなくなったことが考察される。
- 対して、イタリアは「働きすぎ」な文化はないため、日本ほどのダメージは受けず、ロックダウンに対する捉え方は、人それぞれ異なるものとなったのだろう。

q20	政府が実施する政策について、全体的に満足していますか
-----	----------------------------

考察（自国の医療制度への満足度）

仮説番号	仮説内容	日本	イタリア
Ho3(+)	自国の医療制度への満足度と旅行意図には正の相関がある	棄却	棄却

- どちらの国でも医療制度の逼迫が問題となっていたことから、仮説要素として「自国の医療制度への満足度」を加えたが、どちらの国でも仮説は棄却された。

q21	近頃の国の医療制度について、全体的にどう思われますか？
-----	-----------------------------

考察（観光客への態度）

仮説番号	仮説内容	日本	イタリア
Ho4(+)	観光客への態度と旅行意図には正の相関がある	採択 (0.1%) /棄却	採択 (0.1%) /棄却

- 2カ国ともq18_1について採択され、q18_4について棄却されている。このことから、各質問に含まれる要素について、さらに詳細に見るべきであり、それぞれに違う要素を見出すべきであったと考えられる。すると、q18_1は観光客への態度やその意義に重きを置いた質問であるのに対して、q18_4は回答者の観光客への態度に関わらず、コロナ禍における観光業の政策についての問いである。そのため、観光客への態度を推し量るデータとしてはq18_1を使用するべきであったと言える。
- しかし、上述の質問の捉え方から、結果について考察していきたい。q18_1について、旅行意図と正の相関があったことから、観光業を推し進める上で経済的側面からアプローチしていくことは効果的であると見て取れる。だが、q18_4は旅行意図との相関が見られなかったことから、観光業を進めていくタイミングについては、人それぞれ考え方が異なることが分かる。この点について、政府は慎重に策を練る必要があると見られる。

q18_1	外国人観光客を地元の地域に受け入れることは、地域経済の活性化に重要だと思う
q18_4	私の住んでいる地域での病気感染のリスクを避けるために、この先1年半は、行政が、海外から訪れる観光客を制限するべきだ

追加分析

日本					
	質問番号	Estimate	Std. Err	t value	Pr(> t)
Intercept		3.2528520	0.0473663	68.674	<2e-16 ***
清潔意識	q19_4+q19_5	0.0003411	0.0011201	0.305	0.761
観光客への態度	q18_1+q18_4(R)	0.0002463	0.0006073	0.406	0.685

イタリア					
	質問番号	Estimate	Std. Err	t value	Pr(> t)
Intercept		4.5246363	0.1695784	26.682	<2e-16 ***
清潔意識	q19_4+q19_5	0.0195028	0.0150574	1.295	0.196
観光客への態度	q18_1+q18_4(R)	-0.0008710	0.0008588	-1.014	0.311

- 二つの質問を扱っていた「清潔意識」と「観光客への態度」について追加分析を行った。
- どちらの場合も、質問ごとに分析を行った場合の方が旅行意図との相関が見られやすいことから、初めの分析結果を用いていくこととする。また、このため本来質問ごとに要因となる要素を分けるべきであったと見られる。

提言

旅行意図と相関のある要素を見つけ出すことによって、海外・国内旅行を再熱させる上で意識すべき点について提言していくことを、このプロジェクトの目的としていた。

「観光客への態度」における結果より、経済的側面より旅行を促すのは効果的であることが分かった。GoToトラベルのように割引をしながらも積極的に旅行をすることを勧めていくべきである。その上で、コロナの状況を踏まえて、旅行を勧める時期については検討する必要があるということであったが、コロナが収まった現在ならば積極的に活動していいだろう。特に最近では、円安で物価が上がり、旅行に行きづらい状況であるからこそ、以前のGoToトラベルのような政策を交えながらも国民の旅行意図を高めていくべきであると考えられる。

上の点においては、日本にもイタリアにも該当する内容であるが、各国において結果が異なったため、それぞれの国での旅行の活性化の方法について考えていきたい。

まず、内面的意識において、日本は「危険回避意識」において、イタリアは「清潔意識」において仮説が採択された。この点では、日本の方が人との接触による感染に対する警戒心が強いため、日本は「人とあまり触れることのない」自然や広い施設などを押し出していくことが旅行意図を高めるために有効であると考えられる。対してイタリアは、清潔意識の高い人ほど外出を避けてしまうため旅行意図が低かったが、日本のように「接触しなければ感染は避けられる」という認識を広め、人の集まらない旅行プランを提案することによって、旅行者を増やすことができるのではないかと考えられる。

次に、外面的意識では、日本は「政策への満足度」において、イタリアは「生活への満足度」において仮説が採択された。日本は、上述のような政策を考えることによって、飲食店等の収入も増え、旅行意図も高まると想像される。イタリアについても、前述のように旅行業を盛んにすることによって経済の活性化につながり、生活への満足度が高い人は増えることが想像される。

謝辞

データを収集、公開して下さった Gluckstad(2022)に感謝します。

参考文献

- 国立感染症研究所(2020)「東京都での新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行 (2020年1~5月) 『IASR』 Vol.41, pp146-147 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/2502-idsc/iasr-in/9818-486d01.html#:~:text=%E3%82%8F%E3%81%8C%E5%9B%BD%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%84%E3%81%A6%E3%81%AF%2C%202020%E5%B9%B4,%E7%A2%BA%E8%AA%8D%E3%81%95%E3%82%8C%E3%81%A6%E3%81%84%E3%82%8B1%EF%BC%89%E3%80%82>
- VR Digest 編集部 (2023) 「緊急事態宣言やまん防はいつからいつまで? 時系列分析に役立つ過去発令期間やトピックスまとめ」 ビデオリサーチダイジェストプラス <https://www.videor.co.jp/digestplus/market/2023/06/76667.html>
- National Library of Medicine(2020), “The Outbreak of COVID-19 in Italy”, *JACC Case Reports*, 2(9), pp1414–1418. <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC7270641/#:~:text=The%20Start%20of%20COVID%2D19,%2C%20Lodi%2C%20in%20northern%20Italy.>
- 国土交通省観光庁(2023)「旅行・観光消費動向調査2022年年間値 (速報) 」 『観光統計』 <https://www.mlit.go.jp/common/001587216.pdf>
- CEIC DATA(2022), “Italy Visitor Arrivals”, <https://www.ceicdata.com/en/indicator/italy/visitor-arrivals>
- Gluckstad(2022), “Risk-perception, attitudes and behavioural intentions to spend on experiences in the post-Corona crisis: data from Italy, Denmark, China and Japan”, *Zenobo* <https://zenodo.org/records/5176085>